

漁海況月報

平成23年 1月 1日

No. 1

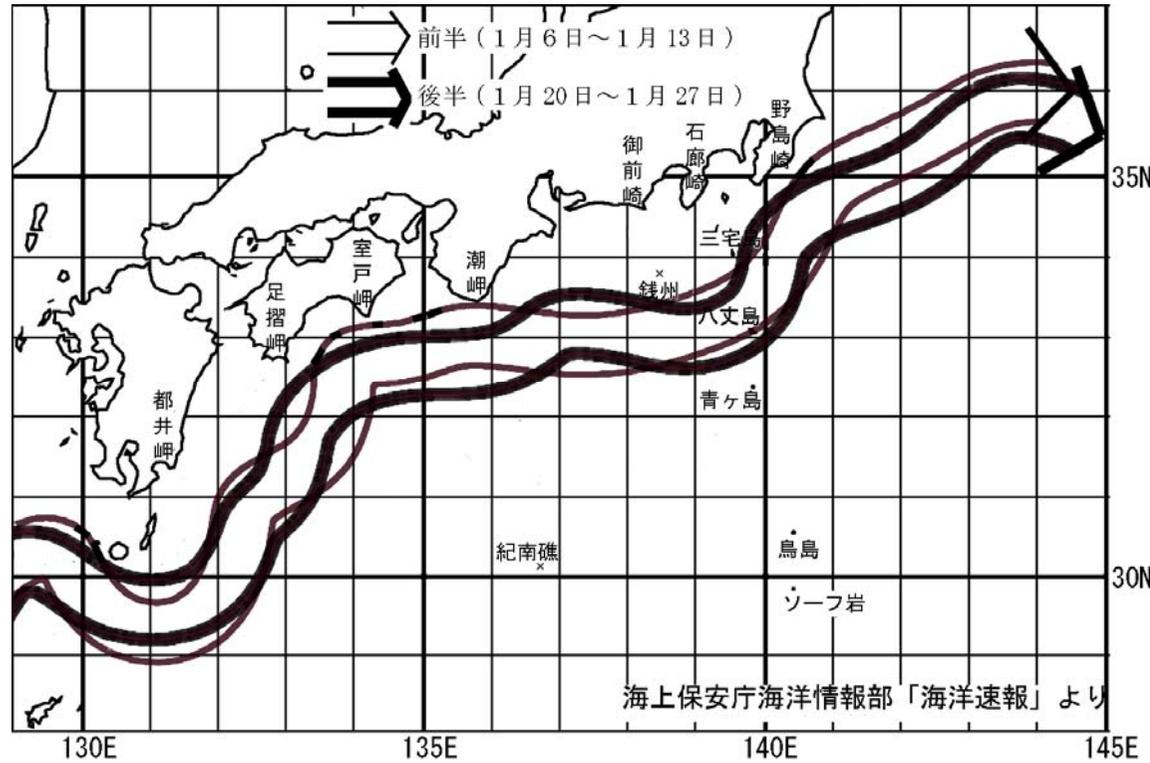
～1月31日

静岡県水産技術研究所

(電話 054-627-1815)

静岡県水産術研究所 伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

前半の黒潮は、四国の足摺岬沖で小蛇行し大きく離岸した後、室戸岬沖～潮岬沖を接岸傾向で流れた。潮岬通過後は遠州灘沖 33° Nを東進し、三宅島と八丈島の間を北東へ向かい、房総半島沖を接岸傾向で流れた。

後半には、足摺岬沖の小蛇行が東進したため、足摺岬沖を接岸傾向、室戸岬沖～潮岬沖を離岸傾向で流れ、潮岬沖では前半に比べ20マイル離岸した。その後、遠州灘沖を東進し八丈島を通り 140° E付近を北上し、房総半島沖を北東へ流れた。房総半島の東方では前半よりも離岸した。

【県下沿岸域】

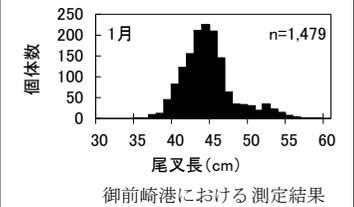
県下の定地水温は、相模湾側では12～16℃台、駿河湾の東部では11～16℃台、西部では8～15℃台で経過し、平年並～平年よりも低めであった。上旬には駿河湾口へ17℃台の暖水が、中旬後半～下旬には相模湾へ16℃台の暖水が波及したが、沿岸水温への影響はなかった。

【竿釣近海カツオ】

県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海竿釣り船によるカツオの水揚量は25トンで前年同期の64%であった。魚価は444円/kgで、前年同期を下回った。沿岸竿釣り船は水揚げがなかった。

近海竿釣り船は、小笠原諸島周辺で小（尾叉長44cmモード）、中、極小カツオを漁獲した
竿釣（近海船+沿岸船）カツオ水揚量（県内主要5港）

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
23年 1月上旬	0	0	—	—
中旬	0	0	—	—
下旬	25	3	8.3	444
23年 1月計	25	3	8.3	444
22年 1月計	39	5	7.8	649
21年 1月計	51	4	12.8	348



定地水温の旬平均値（℃）（下段は偏差）

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	14.4	15.3	14.5	15.0	14.4	15.4	11.3
	-0.9	-0.5	-0.8	-0.6	-1.2	0.6	-1.8
中旬	13.9	15.5	14.8	14.1	13.6	14.7	9.9
	-1.0	0.1	0.1	-0.9	-1.5	0.4	-2.4
下旬	14.2	15.1	14.4	13.4	13.1	14.6	9.3
	-0.3	0.2	0.1	-1.2	-1.5	0.6	-2.5
月	14.2	15.3	14.6	14.1	13.7	14.9	10.0
	-0.7	-0.1	-0.2	-0.9	-1.4	0.5	-2.4

【定置網】

平成23年1月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は521トンで、操業がなかった赤石を除く1漁場当たり水揚量は74.4トンで、昭和57年以降で最も多く漁獲され、前年54.6トン（7漁場）の137%、平年値（昭和57～平成21年）23.3トンの280%であった。

魚種別水揚量は、①スルメイカ285.1トン（A：前年同月比742%、B：平年同月比890%）②カタクチワシ137.0トン（A67%、B：363%）③サバ類49.5トン（A：56%、B：204%）④サンマ12.2トン（A：1,099%、B：71%）⑤マイワシ8.0トン（A：24,956%、B：31%）の順であった。

スルメイカは北川、谷津、富戸を中心に入網し、昭和57年以降で最も多く漁獲され、外套背長のモードは26cmであった。カタクチワシは古網に集中的に入網し、伊東市場で測定した被鱗体長のモードは13cmであった。サバ類はゴマサバ主体で川奈、古網、北川を中心に入網し、尾叉長のモードはゴマサバは30cmであった。サンマは北川中心に入網し、肉体長のモードは30cmであった。マイワシは古網、北川を中心に入網し、被鱗体長のモードは12cmであった。また、漁獲の中心となるべきマアジ

は 2.0 トン (A : 19%、B : 22%) と著しく低迷したが、ブリは谷津中心にブリ銘柄が 133 尾、1.4 トン (A : 180%、B : 151%) 入網し、平均体重は 10.4 kg (尾叉長のモード 83 cm 台) で、2007 年級群が中心であると考えられ、ワラサ銘柄が 7.2 トン (尾叉長のモード 63 cm) と昭和 57 年以降で最も多く入網し、2009 年級群と考えられた。

漁場別水揚量は、北川 194 トン (スルメイカ、サバ類、サンマ中心)、古網 142 トン (カタクチイワシ、サバ類、マイワシ中心)、谷津 63 トン (スルメイカ、ワラサ中心) の順であった。

【サバたもすくい・棒受網】

年明けの水揚げは、たもすくいが 11 日から、棒受網は 24 日からとなった。小川港には両漁業によってゴマサバ 169 トン (前年同月比 43%) が水揚げされ、マサバの水揚げは皆無であった。ゴマサバの 1 隻あたり水揚量は 21.1 トン/隻 (前年同月比 119%) であった。ゴマサバの平均単価は 48 円/kg で、前月 (39 円) を上回ったが前年同月 (71 円) を下回った。

漁場は、たもすくい・棒受網とも三本に形成され、尾叉長 28cm モードのゴマサバ 2 歳魚 (2009 年級群)、1 歳魚 (2010 年級群) 主体に 3 歳魚 (2008 年級群) 以上も混じった。また、オアカムロも混獲された。

小川港 サバ類 (たもすくい・棒受網) 水揚量

期 間	水揚量(ト)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(ト)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
23年1月上旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中旬	0	94	3	5	0.0	18.8	—	48	三本
下旬	0	75	1	3	0.0	24.8	—	49	三本
23年1月計	0	169	4	8	0.0	21.1	—	48	—
22年1月	2	391	6	22	0.1	17.8	359	71	三本、三本
21年1月	0	317	5	11	0.0	28.8	—	53	三本、三本

* 水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【シラス船曳網】

1 日 1 か統当りの水揚量は、駿河湾 152kg、遠州灘 1,006kg であった。主要 6 港平均の 1 日 1 か統当りの水揚量は 567kg と前年同期(41kg)の 14.0 倍、平年同期 (過去 5 か年平均 : 99kg) の 5.7 倍と前年同期、平年同期を大きく上回った。また、総水揚量は 187.8 トンで前年同期(1.9 トン)の 96.4 倍、平年同期 (17.6 トン) の 10.7 倍と、前年同期、平年同期を大きく上回った。1 月の総水揚量としては昭和 60 年以降の最高を記録した。平均単価は 330 円/kg と平年同期 (984 円/kg) を下回った。

シラス水揚量 (主要 6 港)

漁 港	水揚量 (ト)	延日数	延続数	平均漁獲量 (kg/統)	平均単価 (円/kg)
新 居	36.9	4	29	1,273	269
舞 阪	74.1	4	58	1,278	201
福 田	42.6	2	40	1,065	245
御前崎	8.3	3	34	244	442
吉 田	16.2	4	90	180	707
静 岡	9.7	4	80	121	1,203
平成 23 年 1 月計	187.8		331	567	330
平成 22 年 1 月計	1.9		48	41	934
平成 21 年 1 月計	3.7		74	51	1,255

【まき網】

小川港ではマイワシが 128.6 トンの水揚げで平年同期 (0.2 トン) の 697 倍であった。沼津港では、マイワシが 481.1 トンの水揚げで平年同期 (4.1 トン) の 117 倍であった。静浦港では、マイワシの水揚げはなかった (平年同期も水揚なし)。カタクチイワシの水揚げもなかった (平年同期も水揚なし)。伊東港ではマイワシが 63.7 トンの水揚げで、平年同期 (58.7 トン) の 108% であった。

注) 平年同期 : 過去 5 か年 (2006~2010 年) 平均

【調査船の動向】

駿 河 丸

1 月 5 日	地先定線観測調査	(1 日間)
1 月 7 日 ~ 1 月 8 日	地先定線観測調査	(2 日間)
1 月 12 日 ~ 1 月 14 日	シラス調査 (TBC ネット)	(3 日間)
1 月 18 日 ~ 1 月 19 日	短期海況変動調査・タチウオ生態調査	(2 日間)
1 月 20 日 ~ 1 月 21 日	サクラエビ IKMT 調査	(2 日間)
1 月 24 日 ~ 1 月 25 日	サババイオテレメトリー調査	(2 日間)
1 月 27 日 ~ 1 月 29 日	サババイオテレメトリー調査	(3 日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

